

仏壇製造技術を活用した小工芸品の開発

デザイン・工芸部 恵原要，中村寿一，藤田純一，山田淳人

川辺仏壇の生産形態は，木地，彫刻，宮殿，塗り，蒔絵，金具，仕上の7部門に分業化され，それぞれの部門において高い加工技術を蓄積し，全国でも屈指の仏壇製造産地として発展してきました。しかし，近年，川辺仏壇の主力製品である京型の金仏壇が外国から低価格で輸入され，そのシェアは増加傾向にあり，また，生活様式の変化を背景とする需要の低迷なども相まって，川辺仏壇の出荷額は激減の傾向にあり，厳しい事業環境下におかれています。

このため産地の活性化と発展を図る一つとして，これまで仏壇業界が培ってきた高度な伝統的技術を活用し仏壇以外の製品開発による新分野への展開を図ることが望まれます。

この事業は，平成11年度から3年間を目途に行うもので，初年度は彫刻，彫金，蒔絵，塗り技術等を活かした小工芸品，テーブルウェア，装身具，デスクウェア，他のデザイン開発，試作に取り組み，約30品目の試作・開発を行いました。

製品開発においては青年部を中心とする業界との意見交換を行いながら，業界の意向を活かす方向で取り組んできましたが，製品開発・商品化には幾つかの課題が見いだされました。

今後，更に新分野への展開を図るために，企業に不足している新製品開発に対する技術面やデザイン開発力などのソフト面についてバックアップ体制をとり，企業の新製品開発能力を高め，高品質で消費者のニーズを捉えた商品開発を目指し，仏壇業界の活性化を図っていきたいと考えます。